

17/Nov.2012

ラオス北部を離れて再びビエンチャンへ戻る

- 08:00 ゲストハウス起床
- 08:30 ゲストハウス前の店で朝食
- 09:00 町歩きでお土産を買い物
- 10:00 ウドムサイ空港着
- 12:02 ウドムサイ空港離陸
- 13:02 ビエンチャン空港着陸
- 15:26 ビエンチャンのまちなかで昼食

早めに空港に着きました。ラオス北部の地方空港の様子をお目にかけてみましょう。



↑oudomxay 空港です。なにやらバス停のような雰囲気。WFP（国連 world food program）の車が駐車中。ウドムサイ事務所とのこと。



↑敷地の外に食事どころ。

↑滑走路へのゲート





↑ 手書きの発着表。一日4便。



↑ 政府要人に顔写真。



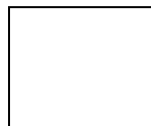
↑ 搭乗機が到着。折り返します。



← 搭乗の機種はMA 60。双発のターボプロップ機。旧ソ連製の機体らしい。安定した信頼できる機体としておこう。ドライフルーツと水がふるまわれる。→ ビエンチャンまで約1時間の飛行である。



↑ 動画  
待合室。半分がツーリスト



↑ 動画  
窓の外ではギアが上がって離陸です



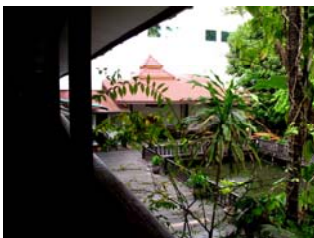
↑ 動画  
ギアを下げて着陸



←ビエンチャン空港着陸です。  
機を降りるなり、熱暑に襲われます。北部と  
気候が異なります。北部の朝夕は日本の秋の  
冷涼を思わせます。雨まで降りますが、ここ  
は暑い。

11月21日のビエンチャン発帰国の航空券まで4日の余裕がある。  
ラオスの南部地域・カンボジア国境付近のメコン川周辺を観光すべく pakxe (パクセー) までの、往  
復航空チケットをゲットしようと、ビエンチャン空港内の Lao Air の発券窓口へ向かう。  
結果、都合のいい日程の航空チケットは手に入らなかった。南部観光を断念する。このことが後ほど、  
幸いなことになるのであるが・・・・・・  
バス移動では、この程度の日程の余裕では時間的に無理である。

ホテルにチェックインの後、昼食兼ねてまちあるきに出る。  
ホテルは HOTEL LAO である。長期滞在なら値引くと言う。通常25万Kのところ21万Kである。  
2100円。ここに4泊することになる。ラオス風2階の建物。木造ヨーロッパスタイルのホテル。  
部屋は快適。



←↑ホテルは市内繁華街のど真  
ん中。道路挟んだ前はマーケッ  
ト。周辺は食事処などショップ。  
必要なものを調達するに不自  
由なし。2階がフロント。一階  
にはマッサージなど。客室は池  
のある中庭を囲んでいる。ここ  
に4泊することになる。裏には  
駐車場。



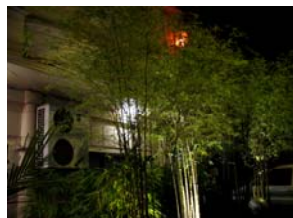
←行きつけの店。JOMO で西洋風サンドイッチとコーヒーで昼食。

この後、体調を崩す。軽い熱中症と思われる。次の日の昼過ぎまでホテルで休養する羽目になる。  
北部の冷涼な気候から一気にビエンチャンの暑熱である。疲れが蓄積したうえにこれが影響したものと  
思われる。南部パクセーまでの航空券が手に入り、足を運んでいたら・・・・・・と思うと、不幸中の幸い  
であったと考えることにしよう。  
ラオス歩きには注意が必要。

18/Nov.2012

昼過ぎまでホテルベッドで休養。日本料理で元気付けることにする。

18:00 日本料理レストラン「藤原」で夕食。



←↑日本料理レストラン。竹の植え込みなどでしつらえられた店構え。玄関にはラオスの仏教施設。シシャモの焼き物が供えられた。ネコがすかさず失敬していった。メニューには味噌汁からそば、うどん、すし、丼物など何でも揃っている。店内はカウンターの他、小部屋に区切られている。2階には日本風宴会が可能な部屋まである。ちなみに、水50円、グリーンティ100円、鉄火巻き250円、サーモン巻き250円、天ぷら盛り合わせ750円、ざるそば450円、とんかつセット500円などである。これらを食したが、量、味とも充分。日本と変わらない。価格水準も同じ。ピエンチャンにはこの他にもすしバーもあり、数店の日本料理店がある。大衆食堂風の日本料理を提供する店もある。